

路を辿りて、現在身は深山中の深山に在りとは、如何にしても想ひ到らざりき。予は今更の如く、大陸地形の島國と相違の甚しきに一驚を喫しぬ。但し達坂山村は之を吐魯番に比すれば、約六百七十米突餘高し。

別有乾坤塞外天 一鞭真是地行仙

殘陽返照千年雪 缺月斜開萬嶺煙

西嶽威靈蟠兩戒 北庭保障壯三邊

短衣躍馬閒經過 飛食將軍古所傳

達坂村の  
寒氣

達坂村は人家三百餘、耕地二百戸地（一戸地は百二十畝）一都司、二把總の下に、馬兵百二十五騎を駐屯せしむ。附近は水草豊滿なる一小高原を成すに因り、牧畜に適し、現に羊一萬餘頭を飼へりと云ふ。此地春冬の交、強風多く、殊に嚴冬の頃、朔風甚劇、寒威酷烈、人畜爲めに凍死するに至ること少からず。故に往々交通杜絶すること有り。予が通過の際の如きは、寒氣の甚しきのみにて微風だも無かりしは實に幸なりき。二十四日トイチヨシ德城トイチヨシを經、行程約十二里、察河舖チャホに投ず。此間東に達坂山脈、西に南山々脈ありて、兩山間自ら一沙原を成し、中に達坂山村の北方より起りて西北行する一